中南地区統合校開設準備委員会（第２回）概要

日時：平成３０年７月２３日（月）
１３：３０～１５：００
場所：黒石市産業会館　大会議室

＜出席者＞
委員
黒坂　孝 委員、三上　雅也 委員、大久保　朝彦 委員、藤田　克文 委員、
山内　孝行 委員、古山　哲司 委員
オブザーバー
県立黒石高等学校
工藤　康暢 教頭、小野　淳美 教頭、原子　敏 事務長、竹村　俊哉 教務主任
県立黒石商業高等学校
川代　由美子 教頭、福士　桂子 事務長、須藤　慎二 教務主任、
菊谷　哲 情報デザイン科主任

１　開会

２　田村教育次長挨拶

田村教育次長から、挨拶があった。

３　事務局説明

（１）第１回中南地区統合校開設準備委員会における主な意見

事務局から、資料１について説明した。

４　協議検討

（１）校名の方向性について

事務局から、資料２について説明した。

委員長から、前回依頼した関係者の意見等も含めた委員の意見を求めた。

委員から、次のような意見があった。

○　私は黒石商業高校を卒業しているので、統合校の名称が「２　校名の方向性」の（１）のように単純に「青森県立黒石高等学校」となれば、「黒石商業高校」が吸収されてなくなってしまったと思われる可能性が強くなると考える。したがって「２　校名の方向性」の（２）のように「黒石＋α」とし、来年、新たな元号になるのでその元号を黒石の前に入れ「青森県立（新元号）黒石高等学校」としてはどうか。そうすることで元号が変わったと同時に黒石高校も変わ

ったということが代々受け継がれるのではないかと考える。

○　「○○黒石高等学校」の○○には元号が入るということであれば、元号が発表されるまでは校名は決められないということになるかと思う。

○　今の意見も十二分に理解できるが、やはり私はこの校名等については過去の流れ、それから未来への流れを考えなければならないと思っている。

現在、黒石高校には普通科のほかに看護科があるが、この看護科は、北東北３県でも唯一の専攻科を有しており、その卒業生はその道の仕事で実績を積んできている。そして、私も青森県外で様々な話を聞くが、「黒石高校」は特に医療関係者の間では非常に知名度が高い。５年間の高校生活によって、大学卒業者と同様に国家試験を受験している。私が話を聞いた当時は１人の不合格者もなかったと高く評価されていた。また、卒業生には様々な場所で地道に働いている者もたくさんいる。

私も驚いたのだが、黒石高校看護科の専攻科の生徒が実習を兼ねて各医療機関に研修に赴いているが、東京大学を始めとする国立大学はもちろんのこと、国家公務員共済組合連合会虎の門病院や皇室関係者も入院することがあると言われている聖路加国際病院も研修を受け入れてくれたと聞いている。このことは黒石高校の実態を理解してくれているという意味だと思う。このようなことから、今まで黒石高校を卒業してその仕事に従事している人たちはもちろんだが、今後自分の道を進んでいく人たちにとっても、出身校というものが非常に大きなウェイトを持つだろうと思う。この意味で校名というのはやはり非常に難しく、また人々に与える影響は大きいと思う。

現在、黒石高校には看護科以外にも普通科があり、過去には英語科があったこともあったが、仮に黒石高校が「○○黒石高校」「黒石○○高校」となれば、それを全ての関係者に周知するのは非常に難しいだろう。

これまで卒業した生徒たち、もしくはこれから黒石高校を卒業して旅立っていく生徒たちにとって、果たして本当にプラスになるのか疑問に思う。そのことが自分の中で非常に揺れ動いている。先程の御意見は十分理解するが、今新しくなる統合校は、５年や１０年で終わる学校ではなく５０年、１００年と続いていく学校だと思う。そうなると、やはり関係者が一度頭にインプットした校名と違和感のない形で対応した方が良いのではないか。

住民感情として、様々なものは理解できるが、今は未来のことも過去のことも考え、単なる感情論ではない形で考えていかなくてはならない。

○　黒石市では、小学校３校を統合し１校を新設することとしているが、校名の検討に当たっては、それぞれの小学校の関係者がそれぞれの校名にしたいというのが初めの要望だった。しかし、その統合後のことを考えた場合、自校の校名のままの方が良いのか、それとも市民が納得する校名には何が良いのか話し合いを積み重ねた。平成３２年度に黒石市内の小学校は７校を統合し２校を新

設することとしており、２校の新設校について並行して会議が行われ、一方が「黒石東小学校」という方向になった結果、一方は「黒石小学校」とすることになった。しかし決定後、「中郷中学校」の隣の小学校が「黒石小学校」、もう一方は「黒石中学校」の少し離れたところにある小学校が「黒石東小学校」となったことについて、いかがなものかとの意見もあったが、今の時点では特に意見もなく納得してもらったと考えている。

新設する中南地区統合校の校名は大変難しい問題である。初めに考えたのは２校の統合ということから「黒石総合高校」であるが、近隣に「尾上総合高校」があるのでどうかとも思う。

また、黒石高校が「町立」であった時、約２０年間は「黒石町立黒石実科高等学校」という名称だった。県立高校になった際「黒石高校」という名前に変更して、それで７０年間続いた。一方、黒石商業高校は「黒石商業高校」としてスタートして４０数年間であるから、「黒石高校」の方が名前としては長く親しまれ伝わってきている。黒石市内に複数高校がある場合には様々な名前の検討もあるかと思うが、黒石市内に１校しかなくなるので「黒石高校」にならざるを得ないのではないかと思う。しかし、先程の説明で校名の検討の進め方について、必要があれば県民から意見を伺う方法が良いと考えるという意見もあった。行政としては様々な計画を決定する際には、原案公表後、１か月程度パブリック・コメントなどで意見を求めるので、今回の校名についてもある程度の意見が出たらパブリック・コメントを実施することを考えてみるのも一つの方法ではないかと思う。とにかくこの場だけで決定してしまうというよりも、広く内容を公開してみるのも一つの方法ではないかと思う。

○　仮に開設準備委員会において校名が一つに絞られたとしても、それは決定事項ではない。あくまで校名は県教育委員会が決定するものである。その際にはただ今の御意見のような手順も検討しながら決定されていくのではないか。

○　中南地区統合校なので、黒石高校も黒石商業高校も一旦終わることになる。その状態、つまり新しい学校を作るとなった場合を考えると、前回もある程度一致したと思うが、やはり地域の名前である「黒石」という部分は残る。一旦閉じ、新たに設置するという考え方からいくと、２校ある場合は地域プラスほかの何かということになるのだが、１校しかないことから地名にならざるを得ないと感じる。

本来は黒石商業高校と黒石高校が一緒になるということなので、プラスαで考えていただければありがたいのだが、両校がなくなるという意味で考えた場合には地名しかないと個人的に思う。

○　私の伺っている意見は必ずしも地元の方のものではないものの二つある。一つは先程もあった「黒石総合高校」、もう一つは「黒石実業高校」である。ただ、「総合高校」という名前にした場合、「総合学科」を設置している高校と

勘違いされるおそれがある。近隣には総合学科の高校である尾上総合高校があるが、この学校と混同されるおそれがある。もう一つの「黒石実業高校」についてである。現在、黒石高校は、既に普通科だけの高校ではなく看護科もあり、かつては英語科もあった。複数の学科を有している高校だった時代から「黒石高校」であるから、改めて大学科「商業」を有する学校として「黒石実業高校」とするのはどうなのかと感じる。

私自身の考え方は、この校名にした方が良いという結果としての名前ではなく、これまで本県が学校名を決定する際の考え方や手続きの連続性が考慮された結果としての名前だという考え方である。

○　第１回の会議の内容から少し具体的な部分が出てきたと感じる。この黒石市には高校が１校だけになる。この校名を考えた場合、歴史的に県立高校の校名の決め方というのは、地名を第一に考えるということで従来決まってきている。やはりその流れは大事にしたいということを考えると「黒石」という名前を入れる。次に統合であるということから、新しい雰囲気を打ち出すために「プラスα」を考えるかどうかであるが、「プラスα」を考えると、この黒石市に唯一の学校となることからほかの学校と区別する必要がないと考えられる。やはり重きを置くのは地名であり、この黒石市に唯一の学校であるということを強く打ち出す校名ということで「黒石高校」としてはどうか。「黒石高校」は従来から使われてきた校名であるため、新しさに欠けるという印象を持つ方もいるかとは思う。しかし、このように委員の御意見を伺うと「黒石高校」という地名単独の校名が、この黒石市に唯一の高校となる学校にふさわしい名前ではないかという感じを受けた。

○　両校の歴史と伝統が一旦終わるのであれば、反対に何か「プラスα」で新しいイメージを付けた方が良いと考える。黒石高校にも黒石商業高校にもそれぞれ卒業生がおり、日本全国で活躍している。それは黒石高校だけのものではない。東京都には黒石商業高校を理解している人が多数いると思う。このような状況で、黒石商業高校だけがなくなったと思われるのは、卒業生として非常に辛いことである。

校名が変わらないということは吸収統合だというのが周りのイメージである。先程の御意見にもあったが、黒石市内の小中学校の統合については、結局「黒石」という地名を生かしただけであり、統合の対象となる学校の関係者は皆それぞれ自分の学校の名前を残したいという気持ちだった。ところが学校が設置される場所が変わるので、例えば、浅瀬石地域ではないのに「浅瀬石小学校」とすることができないということであり、結果として今の「黒石小学校」、「六郷小学校」、「東英小学校」という形になっただけである。

今回は黒石市という大きなエリアで考えると、地名である「黒石」が入っていればこれまでの校名の付け方の考え方としては十分であり、「プラスα」で考えれば良いのではないかということである。

○　私も３名の方から様々な話を伺った。一つ目は「黒石高校」という単独校名が、最も重厚感があり黒石市に構える高校としてインパクトが大きいことから、是非「黒石高校」にしてほしいというものだった。二つ目は、黒石市は津軽平野の東側に位置している。一番東にあるということから朝日が一番先に照らすところである。したがって、東に位置するという「東」と、明るく照らすという「明」という二つの字をとって、「黒石東明高校」はいかがかというものであった。三つ目は、この難局の暗い時期に、高校が一つになって、新しい高校として生まれる。まるで朝日が照らすような学校にしてほしいということから、ちょうど朝日が出る瞬間、黒い空を照らす光の状況である「東雲」を用い「黒石東雲高校」はどうかというものだった。実は黒石東雲高校の提案者が全国の校名を調べたところ、「東雲」を用いた学校は至るところにあるという状況だったようだ。

委員長から、開設準備委員会では、校名について、元号を黒石に付ける「（新元号）黒石高校」と黒石を単独で使用する「黒石高校」の二案とする旨確認し委員から了解された。

加えて、委員長から、県民から白紙の状態で意見を求めた場合収拾がつかない状況に陥ってしまうことが懸念されるため、この案について県民の意見を伺うなどしながら、県教育委員会において判断してもらいたい旨提案があり了解された。

（２）学科の方向性について

事務局から、資料３について説明した。

委員から、次のような意見があった。

○　今事務局からの説明にもあったが、前回も話したように情報デザイン科は特色ある教育活動を実践していることもあり、地域の方々から様々な御要望をいただきながら、こけし灯籠の制作など地域と協力し活動している。

○　情報デザイン科は、資料３の「設置趣旨」にあるように「デザインをマーケティング活動に適切に活用できる能力と態度を育てる学科」として設置され、この趣旨が十分生かされた特色ある学科であり、地元黒石市において非常に大きな活躍をしているということが窺われる。

ただ一方で、そのような活躍の中にあって、資料３の２ページ「（３）志願・入学状況」を確認すると定員割れが生じている年度もあり、志望者が少なく、少し寂しい状況にあるということも事実である。

４ページに「中南地区統合校において想定される学科構成パターン」がある。統合した際、情報デザインに関する学びについて、学科として設置するということは定員を設定することになり、定員割れの可能性があることを常に抱えながら学校を運営しなければならないということである。一方、コースとして設

置するということは、入学後、情報デザインに興味のある希望者が学んでいくということになる。それぞれ一長一短があると思うが、このことも踏まえながら委員の御意見を伺いたい。

○　私は情報デザイン科という単独の学科として設置することが望ましいと考える。現在よりも学校規模が大きくなるので、新しい学科として設置された方が、生徒の選択の幅、つまり多様性が確保できる。ただし、今は商業高校の中にある情報デザイン科ということであり、他の学科に比べて商業的な色合いがやや薄まっているという状態だと思うが、今後は普通科と看護科が設置された中に大学科「商業」として設置することになり、商業の特性が機能することになると思う。したがって、大学科「商業」ということをしっかりアピールするような教育課程を編成した上で取り組むことが必要だと考える。

○　資料３の作成時にも、学科またはコースの場合について様々検討した。情報デザイン科の特性を求めていくとなれば、学科でなければそれを成しえないと考える。専門性を深化させるためには早い段階から手がけることが必要となるので間違いなく学科が必要である。定員割れについては「商業」という学びがうまく中学生等に伝わっていなかったからではないかと考える。したがって、黒石高校と黒石商業高校が統合するということによって大学科商業というものを逆にアピールするチャンスになるのではないかと考える。しっかり地域の方々等に情報デザイン科の在り方や学びをアピールすることによって生徒の興味関心を喚起し定員割れを防ぐことができるのではないかと考える。

○　黒石市としても情報デザイン科には、資料３に記載されているだけではなく様々な形で協力いただいている。

　例えば、最初に全国的に有名になったと思われるのは、黒石郵便局の壁画「黒石の四季」である。そのほかにも、生徒たちが描いたものが記念品として寄贈され残っている。地域に根ざし、地域に密着した形で連携した事業等にこれからも協力していただかなければならないと考える。黒石市を良くするために協力していただいていくことを考えると、やはり学科でなければ活動しにくいだろう。コースになると２年生では基礎から学び、３年生にようやく成果が出るものになる。一方、学科であれば、各学年に適したものを学び、３年生にはより素晴らしい取組について協力いただいている。したがって、是非学科で今後とも黒石市民のために協力していただきたい。

○　黒石地域の子どもたちが、将来、世界的に新しい感性や見方で新しいものにも挑戦していくという時代に入っていくと思う。このような勉強する場は将来にわたって貴重な場所だと思う。やむを得ず統合するという状態ではあるが、学科という形で日常的にチャレンジできる場所を黒石市内に確保し将来に向かって新しい夢を子どもたちに与えることが、本当に黒石地域の子どもたちを幸

せにする第一歩になると思う。

○　私もやはり学科でお願いしたいと思う。コースとして広く募集し、２年生から２年間で学ぶよりも、学科として特化し特色を大いに出して、募集した方が新しい高校の中で特別な選択ができる、学習できる場ができたのだと、今までには全くないような非常に質の高いものだということをアピールすることができると考える。そのためには、学科として打ち出した方が良いだろう。

これまでも黒石商業高校情報デザイン科は、郷土の祭りにもたくさん参加して活動している。例えば、これまで減少傾向にある黒石市の扇ねぷた等を例にしてみると、この学科を新設することによって、通称ねぷた小屋と言われるねぷたの製作所において製作の過程を年中見学できたり、できあがったものを見本として展示したりするようなことも考えられるのではないか。さらに、前回黒石商業高校で見学したマッキントッシュのコンピュータグラフィックスを利用したファッションの学習などができる新たな実習棟の整備も視野に入れてはどうか。

人口減少で若干気持ちも落ち込んでいるような中にあって、新しい学校の学科への進学について本当に期待が持てるものを打ち出すことができれば良いと思う。そうすることで進学した生徒は、統合後今までにはない立派な施設や活動があり、様々な学習が充実していることを感じることだろう。

もう一つ、黒石市内のある中学校の状況として今年は従来に比べ黒石商業高校への志望状況が約半数と聞いている。その中学校で言えば、今年の春は３２人入学したが、現在はその半数の約１５人の希望者と聞いている。

黒石市内の中学校がそのような状況であり、その他の生徒がどこに向かっているのか聞いたところ、本当であれば黒石高校という答えが返ってくれば良いのだが、弘前市内の高校に向かっているとのことだった。このことは大学進学等が視野に入っていると考えられる。そのためには学科ということを強く打ち出し、４年制の大学にもチャレンジできる場を設定すれば、非常に人気も上がり将来の展望も開けてくるのではないかという思いが強くある。

委員長から、委員一致した意見により、開設準備委員会では、統合校における情報デザインに関する学びは商業科の専門性を強く打ち出した上で学科とし特色を出していくこととする旨確認し、委員から了解された。

（３）校訓等の方向性について

事務局から、資料４及び資料５について説明した。

委員から、次のような意見があった。

○　約１０年前に仕事の関係で黒石商業高校を訪問する機会があった。その時に初めて知ったのが「誓いのことば」の実践であった。様々な機会がある度に生

徒がこの「誓いのことば」を復唱している。また、生徒だけではなく教員も復唱し覚えている。そのくらい「誓いのことば」というのは教育活動として非常に根付いている。

以前の県立高等学校教育改革第３次実施計画における統合校の教育活動の引継ぎはなかなか思うようにいかなかったと記憶している。今回、黒石高校と黒石商業高校の統合に当たっては、例えば、校訓、教育目標、教育方針、重点目標については従来の黒石高校のものを引き継ぎ、黒石商業高校の「誓いのことば」についてもそのまま引き継いではどうか。「誓いのことば」こそが、まさに黒石商業高校の魂ではないかと考える。外側の部分は黒石高校であっても中身に黒石商業高校の魂を組み入れることで、両方を生かしたことができるのではないかと思う。

○　是非「誓いのことば」はそのまま使っていただきたい。恐らく黒石商業高校の卒業生ほど校訓を覚えている卒業生はいないと思う。黒石商業高校の１回生から機会あるごとにこの「誓いのことば」を全員で読んでいるため、この黒石商業高校の目指したものが生徒に自然と根付き、その言葉は今でも多くの卒業生が覚えている。これを利用していただけるのであれば非常にうれしい。

○　今の御意見は、統合校においては、校訓や教育目標は黒石高校のものをそのまま踏襲し、黒石商業高校の「誓いのことば」をそのまま生かしてはどうかということかと思う。

○　新たに校訓を制作する場合、両校の校訓を合わせることが恐らく良いのではないかと考えるが、ただこのように校訓を比べてみると、どの言葉を活用するのかという議論になると思う。したがって、黒石商業高校が今実践している「誓いのことば」は創立からの基本精神であり、この先実践しても何ら遜色がないものである。今後も生徒の教育に役に立つものだと考えるので、統合校において是非踏襲し実践していただければ良い。校訓については今の黒石高校のものを活用することとし、仮に「誓いのことば」を取り入れないのであれば、統合校の校訓には黒石商業高校の何かを新たに付け加えるということも考えられる。

○　今、発言のあった委員の意見は全て一致するものであり、本当に子どもたちにとっても良いことであると感じる。素晴らしいことだと思う。

○　黒石高校の校訓等を活用するとともに、黒石商業高校の「誓いのことば」を実践していくことに委員全員が賛成だったと認識している。特に校長である副委員長の言葉は非常に重いと思う。副委員長が「誓いのことば」を実践していくことが良いと推薦するのであれば誰も反対しないだろう。うまくまとまってありがたいと思う。

委員長から、開設準備委員会では、校訓については黒石高校のものをそのまま踏襲するとともに、黒石商業高校の「誓いのことば」についても従来使われてきた経緯を含めてそのまま引き継ぐという意見とする旨確認し、委員から了解された。

委員長が副委員長及びオブザーバーに対し、次回開設準備委員会において、黒石高校及び黒石商業高校の教育活動や記念物品の引継ぎ等について検討するための資料作成について協力を求め了解された。

５　閉会